



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3392 号 2016.12.9 発行

読書のバリアフリー目指して 流山「森の図書館」で企画展



東京新聞 2016年12月8日
読書を楽しむ図書館と障害者の間にある「障壁」を考える企画展「読書の喜びは誰のもの？ みんなで考えよう障害者と図書館」が、流山市東深井の同市森の図書館で開かれている。点字本の展示や同図書館のバリアフリーの試みを紹介している。

多様な人が共に生きる社会を目指す今年三日からの障害者週間に合わせ、同図書館が、今年四月施行の障害者差別解消法への理解を深めてもらうことなどを目的に初めて企画した。図書館の利用者には、耳が聞こえにくく、やむを得ず図書館員と大きい声でやりとりする人や、外見だけでは障害があるとは分からない人もいる。

同館によると、企画展を通じ、利用者が互いに寄り添う気持ちになってほしいという思いがある。点字本など「ハード」面に力点を置きがちなバリアフリーの読書サービスの充実につなげる狙いもある。

企画展では、通常より文字が大きい大活字本、点字絵本、さわって楽しむ布絵本、朗読CDなどを展示。今年始めた手話付き読書会や絵や文字を指さして意思を伝える「コミュニケーションボード」の活用のほか、筆談用ボード、本の文字を読み取って音声で読み上げる機器など、同館の取り組みも紹介している。

二十五日まで。休館は月曜。問い合わせは同館＝電 04 (7152) 3200＝へ。（飯田克志）

「スイーツ甲子園」 県代表のかがやきが全国一



徳島新聞 2016年12月8日
スイーツ甲子園でグランプリに輝いた「阿波晩茶のホロホロクッキー」＝阿波市の障がい者就労支援センター・かがやき

障害者が働く事業所で製造するお菓子のコンテスト「第8回スイーツ甲子園」（兵庫県主催）で、徳島県代表の障がい者就労支援センター・かがやき（阿波市）の「阿波晩茶のホロホロクッキー」が最優秀のグランプリに輝いた。県代表のグランプリ受賞は4年ぶり2回目。

阿波晩茶を練り込んだ半球型のクッキー

でホワイトチョコレートを挟み、表面には阿波和三盆糖をまぶした。ほろほろと口溶けが良く、上品な甘さと阿波晩茶の香りも楽しめる。3月にあった県内大会で23作品の中から代表に選ばれていた。

11月26日に神戸市で行われた審査会では、予選を勝ち抜いた6府県の代表作品をパティシエら6人の審査員が採点。会場を訪れた2039人による人気投票の結果も加味した。ホロホロクッキーは、鳥取代表の「もりのみキャラメル」(2位)と審査員の採点で並んだが、会場の人気投票で上回った。

かがやきで生産を担当する利用者のリーダー、菊地莉紘さん(21)は「夜も眠れないほどうれしかった。これからも、難しい作業を失敗しないよう頑張りたい」と喜んでいる。

かがやきは「和三盆ブリュレ」を出品した3年前の同コンテストで特別賞に輝いているが、グランプリは初めて。前田裕子就労支援課長は「今回は全ての製造工程を利用者が担っているので、一層うれしい。みんなの自信になった」と話した。

ホロホロクッキーはイベントでの販売が中心だが、電話注文も受け付けている。近くオンラインショップでの販売も始める。問い合わせはかがやき<電0883(36)7100>。

「やまゆり」被害者を忘れない 元職員ら聞き取り開始 東京新聞 2016年12月8日

相模原市緑区の知的障害者施設「津久井やまゆり園」の殺傷事件で、元職員の二人が「実名で被害者の生き方を公表することが、障害者への偏見をなくすことにつながる」と亡くなった十九人について関係者への聞き取り調査を始めた。事件では被害者名は伏せられたままだ。二人は「記憶が薄ければ取り戻せない」と活動を続ける。九日まで障害者週間一。

(井上靖史)

二人は、東京都八王子市の福祉施設職員、西角純志さん(51)と、園の近くに住む太田顕(けん)さん(73)。

二〇〇一～〇五年まで園に勤務した西角さんは、被害者の中に自分が携わった入所者六人がいると知った。しかし県警や県は「遺族の要望」などを理由に被害者を匿名発表とし、ほとんど話題に上らないと感じた。一方で、植松聖(さとし)容疑者(26)の「障害者は不幸を作ることしかできない」との考えは注目を集めた。

「亡くなった方が忘れ去られてしまう。逆に加害者はネット上などで英雄視もされ、思うつぼだ」

一九六八年から三十六年間勤務した太田さんに相談すると、思いは同じだった。「園生には、わが子をいつくしむような気持ちで接してきた。このままではいけない」

二人は九月以降、元職員や園に携わったボランティアら十数人のほか、入所者の家族会前会長で、事件で息子の一矢(かずや)さん(43)が重傷を負った尾野剛志さん(73)＝神奈川県座間市＝からも話を聞いた。すると十九人のうち、十五人の「生きた証し」が少しだけ見えてきた。それぞれが優しさや趣味を持ち、自分の人生を歩んでいた＝表。

一部の遺族には「話したくない」と断られた。それでも、西角さんは来年以降も調査を続けるという。

「障害者と一くくりに言うが、亡くなった方々も喜んだり楽しんだりした時間があった。匿名が逆に偏見や差別を生んだり助長することも考えられる。遺族の方たちと、どういう公表の仕方があるかを相談していきたい」

やまゆり園元職員の太田顕さん＝相模原市緑区で

◆調査した入所者たちの人柄

▽言葉が不明瞭なところもあったが、グループのリーダー的存在で新人職員にも園内の仕事を丁寧に教えていた。演歌が好きで、北島三郎さんのコンサートに担当職員と一緒にいった。北島さんの名前が入った湯飲み茶わんを二つ買い、一つを職員



にくれた（西棟2階の男性）

▽近くの洋食店によく食事をしに来た。駄々をこねたりするようなことが一切なく、まるで生き仏、天使のような存在だった（東棟1階の女性）

▽囲碁や将棋が好きで、毎週日曜日昼のテレビ番組を欠かさず見ていた。電車好きでもあり、「ドアが閉まります」と車掌さんのマネもしていた（西棟2階の男性）

▽畳の部屋で昔ながらのトランジスタラジオをいじるのが好きだった。職員の声掛けに素直に応じてくれた（西棟2階の男性）

▽言葉で自由に意思表示はできなかったが、絵や写真で自己表現していた。昔の職員を気にしたり、若いころの自分の写真を見せてアピールしていた（西棟2階の男性）

▽テーマパークに出掛けると、家族連れの子供に興味を示す母性的な人だった（東棟1階の女性）

措置入院中から支援計画を作成 相模原殺傷で再発防止策 朝日新聞 2016年12月8日

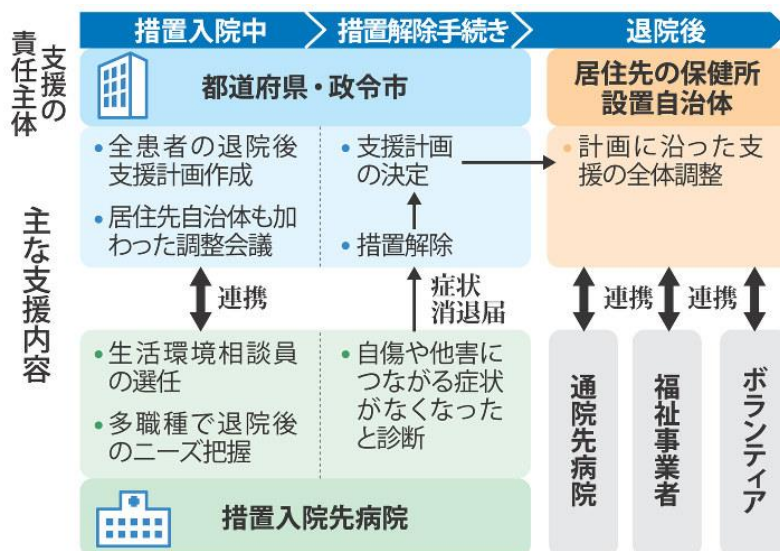
相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者19人が殺害された事件を受けて、厚生労働省は8日、再発防止策の報告書を公表した。措置入院中から都道府県や政令指定市が支援計画を作成し、退院後も継続的に支援できる仕組みづくりを柱としている。

有識者9人による厚労省の検証・再発防止策検討チーム（座長＝山本輝之成城大教授）がまとめた。厚労省は報告書を具体化させるため、来年の通常国会に精神保健福祉法改正案を提出する方針だ。

現行法上で措置入院した患者は、「自傷他害の恐れ」がなくなると精神保健指定医が認めれば、都道府県や政令指定市が措置を解除して退院する。だが、その後の支援体制のルールは定まっていない。相模原市の事件は植松聖（さとし）容疑者（26）の退院後に発生したことから、今回の報告書では関係機関の連携を強化したうえで、退院後も継続的に支援できるようにする。

相模原の障害者施設殺傷 最終報告 厚労省主導に限界 毎日新聞 2016年12月9日

支援体制のイメージ
措置入院中から退院後までの



19人が犠牲になった相模原市障害者施設殺傷事件の再発をどうすれば防げるか。厚生労働省の検討チームが8日出した答えは、措置入院患者への「継続的な支援」だった。当初、障害を持つ当事者や家族が懸念した監視や隔離の強化は、検討チームが強く否定したが、精神保健

福祉分野の対応に関する議論に終始したことに「表層的だ」「国民的な議論を」といった声もある。【熊谷豪、山田泰蔵】

高松の小学校 児童のノート「悪い例」 掲示の教諭注意 毎日新聞 2016年12月8日

高松市内の小学校で今年5月、教諭が悪いノートの書き方として児童1人のノートを黒板に掲示し、クラスの他の児童に問題点を指摘させていたことが7日、市教委への取材で分かった。児童はノートを取り戻した際、制止しようとした教諭ともみあって軽傷を負った。市教委は不適切な指導として教諭を口頭で嚴重注意した。

市教委によると、教諭は児童の宿題のノートを黒板に磁石で掲示し、複数のクラスメートに問題点を指摘させた。授業後は、ノートを取り戻した児童の体に手をかけ、児童の首付近にその手が当たってすり傷を負わせた。教諭は更に体をつかみ、手を離れた際に児童は前のめりに転倒した。

教諭は校長に当日報告し、児童宅を訪れて児童と保護者に謝罪。クラスの全児童にも翌日謝罪した。この児童はその後も登校を続けているという。

市教委の久保朗・学校教育課長は「悪い例を示す指導もあるが、子どもを特定できるようなやり方は不適切。『見せしめ』と取られても仕方なく、配慮が足りなかった」と説明している。【植松晃一】

函館に障害者雇用ホテル 85人採用、来年9月開業 北海道新聞 2016年12月8日

【函館】障害者の就労支援事業所などを運営する社会福祉法人函館恵愛会（函館市、小貫恭也理事長）が、障害者を雇用して運営するホテルの建設を計画している。雇用者数は85人を見込み、来年9月のオープンを目指す。函館では北海道新幹線開業による好況で宿泊施設の人手不足が続いており、業務を通じて技術を磨いた障害者が、別のホテルに就職する就労支援につなげる狙いもある。

恵愛会によると、ホテル名は「クレドホテル函館」（仮称）。鉄骨造り4階建て、延べ1289平方メートル。客室42室の予定で、車いす対応の身体障害者用ツインルームを1室設ける計画。建設予定地は函館競馬場や函館アリーナの近くで、観光やビジネス客を見込む。

アートで脳を活性化 七飯の中村さん、道南初の臨床美術士に 認知症、発達障害など改善 15日から函館で講座 北海道新聞 2016年12月8日



講座で制作した作品を手に受講を呼びかける中村さん

長年高齢者介護の仕事をしてきた中村まゆみさん（58）＝七飯町在住＝が、道南で初めてとなるクリニカルアート（臨床美術）の資格を取得し、同町や函館市内で、美術作品を使って脳を活性化させるアート講座を開いている。中村さんは「臨床美術にはストレスを解消し、やる気を起こして人を元気にする力がある。臨床美術の良さを知ってもらい、活動を広げていきたい」と話している。

臨床美術は、芸術療法とも呼ばれる。絵画や造形作品の制作を通して五感を刺激し、脳を活性化させることで、認知症や発達障害などの症状改善を図る。NPO法人日本臨床美術協会（東京）が、症状改善のための独自のプログラムを用意し、指導者の認定もしている。

中村さんは函館出身。小さいころから工作が好きで、美術の専門学校を卒業し、建築デザイン事務所やハウスメーカーで働いた経験がある。また子育てが一段落した9年前には介護福祉士の資格を取り、高齢者施設などで働いた。

昨年5月、臨床美術講座を紹介するテレビ番組で、認知症の高齢女性が生き生きと作品

制作の取り組み姿を見て臨床美術への関心が高まった。「美術や福祉の知識など、今までの人生経験が生かせる」と考え、東京の臨床美術を教える講座に通い、通信講座も受けながら臨床美術士の資格を取得した。

10月から大中山コモン（七飯町）で月1回の講座を始めたほか、棒二森屋（函館）内の高齢者交流拠点「ふらっとD a i m o n」が開設した臨床美術講座の講師も務めている。今月15日からは、函館市地域交流まちづくりセンター（末広町）でも講座を始める。

臨床美術は、対象を視覚だけでなく、嗅覚や触覚、味覚など五感でとらえて作品を制作する。中村さんが開くアート講座では、リンゴの重さや匂いなどを感じて描く「りんごの量感画」や、新聞紙に和紙を貼り重ねてカボチャを作る「立体かぼちゃ」などのプログラムがある。

講座は1回90分間で、料金は材料費込みで1200円（来年からは変更予定。ふらっとD a i m o nの講座は500円）。

中村さんは、臨床美術士や支援者の団体「臨床美術ほっかいどう」（札幌）のメンバー。今後は障害児施設や、デイサービス施設での講座開催も予定している。

講座の問い合わせは、中村さん（電）090・7653・5125へ。（大山愛弓）

上映会を開きませんか 介護テーマの「つむぐもの」

福祉新聞 2016年12月08日 編集部

全国「つむぐもの」プロジェクトはこのほど、介護をテーマにした映画「つむぐもの」の上映会の開催を呼び掛けている。地域の介護職の研修会や交流会での活用も可能で、同作品の犬童一利監督（30）を呼んでトークショーを行うことも可能だという。

映画は、半身まひになった昔気質な和紙職人と、ワーキングホリデーで来日した韓国女性との介護を通じた交流を描く。職人をベテラン俳優の石倉三郎さんが演じる。

舞台は、伝統産業が盛んな福井県の丹南地方。韓国・プヨ郡と友好都市であることから企画された。16年3月に東京を皮切りに全国で上映され、世界12大映画祭の一つ上海国際映画祭にも招待。厚生労働省のティアアップ作品に認定され、全国老人福祉施設協議会の後援も受けた。



映画の一場面。右が石倉三郎さん

制作にあたり犬童監督は何度も施設に足を運び、介護の仕事を経験。「きれいごとではない面を体験する一方で、職員が利用者の人生を支えようとする姿に心打たれた。若い世代に見てもらい、介護のイメージを変えてもらえれば」と話す。

上映会は学校や就職フェアなどで活用できる。既に徳島県や横浜市、秋田県

北秋田市の社会福祉協議会、埼玉県や島根県の福祉専門学校などでも上映会が行われた。

料金は2万円からだが人数によって異なり、150人なら10万円。問い合わせは、プロジェクト事務局本部（☎03・3568・4679、tokuta@soul-a.com）へ。

ノロウイルス患者急増…保育、幼稚園で集団感染相次ぐ 読売新聞 2016年12月8日

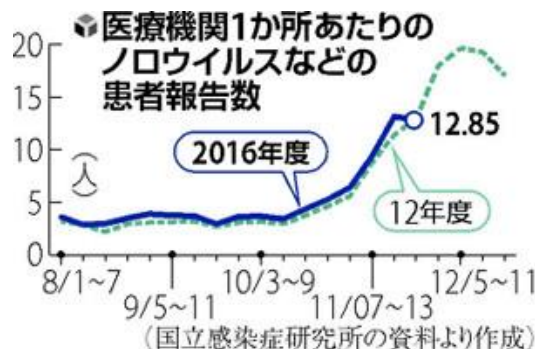
ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎の患者が、11月中旬から急増している。近年では、最も流行した2012年とほぼ同じペースという。抵抗力の弱い子供やお年寄りでは重症化する恐れもあり、厚生労働省が警戒を呼びかけている。

国立感染症研究所によると、ノロウイルスは感染力が強く、1～2日間の潜伏期間を経

て嘔吐や下痢、発熱などの症状が出る。手洗いや嘔吐物の適切な処理などを徹底する必要はある。

全国約3000の小児科から報告された患者数は、集計を終えた11月21～27日の1週間で約4万人だった。医療機関1か所あたり12・85人で、06年以降の同時期と比べると、06年(19・82人)、12年(13・02人)に次いで多い。関西では、奈良県、兵庫県、大阪府が全国平均を上回った。

10月に流行入りして以降、大阪府豊中市では、こども園など2か所でそれぞれ100人以上が感染した。市によると、市保健所ができた



12年度以降では最大規模の集団感染という。

市保健所は今年2日、市内の保育園や幼稚園の担当者を集めて研修会を開き、嘔吐物を処理する場合は、飛沫になって飛び散っている可能性があるため、半径2メートルの範囲を次亜塩素酸ナトリウムを含む漂白剤で消毒するよう呼びかけた。また、ぞうきんなどはなるべく使い捨てにすることや、園児や職員らに手洗いを徹底させることも求めた。

ノロウイルス感染を予防するポイント

- 食事前やトイレの後などは15秒以上かけて手のひらや甲、指先、手首を洗う
- 手洗い後のタオルを共有しない
- 食品は十分加熱する
- 嘔吐物は使い捨てぞうきんなどでふき取り、塩素消毒後に水ぶき。使用後は密閉して廃棄
- 汚れた衣類は85度以上のお湯に1分以上つけるか、塩素系漂白剤に浸す

大阪府藤井寺市の「藤井寺特別養護老人ホーム」では、職員がドアノブや自動販売機のボタン、手すりなどを2時間おきに消毒。トイレ使用後は必ず、手袋をした職員が便座をふき取りする徹底ぶりだ。奥田益弘理事長は「年中続けて習慣化させることが大事。今年も感染ゼロで乗り切りたい」と気を引き締める。

園田学園女子大の山本恭子教授(感染免疫学)は「予防策として有効なのは手洗いの徹底。タオルを共用せず、ペーパータオルを使うことも効果的だ。感染した場合は、嘔吐や下痢で脱水症状を起こす危険もあり、速やかに医療機関で受診してほしい」と話す。

「トイレ後、手洗わず」15%

消費者庁が昨年、流行に備えて行ったインターネット調査によると、「食事の前に手を洗う」と答えた人は約53%にとどまり、「トイレの後に手を洗わないことがある」も約15%いた。「嘔吐物を処理した後に洗う」は42%、「おむつ替えやトイレ介助の後で洗う」も33%で低調だった。

見た目でも汚れていなくても、手に付着したウイルスが口から体内に入り、病気に感染する可能性がある。同庁は、必ずせっけんでよく手を洗うよう注意を促している。

生活保護世帯が2カ月連続で最多更新 受給者数は減 共同通信 2016年12月8日

厚生労働省は8日までに、全国で生活保護を受給している世帯は9月時点で、前月から266世帯増え、163万6902世帯になり、2カ月連続で過去最多を更新したと発表した。高齢者の単身世帯の増加が要因。一方、受給者数は1029人減り、214万5114人となった。

三拍子そろった弁当 府とセブンイレブン開発 大阪日日新聞 2016年12月8日

大手コンビニのセブンイレブンは7日、府民の健康づくりの一環として府が推奨する野菜、油、塩の量の基準を満たした弁当「胡麻(ごま)だれで食べる温野菜のお弁当(麦飯)」(税込み550円)を府庁で披露した。共同で開発し、野菜不足や塩分を取りがちな府民

の食生活の改善につなげる。13日から府内の店舗で販売する。

共同開発メニューとしては、今年3月に発表した中華飯などに続く4品目。弁当はパプリカやブロッコリーなど鮮やかな色合いの5種の温野菜を盛り付け、ボリューム感のある豚バラ肉と鶏ムネ肉のつくねを添えた。

府が健康的な食生活の目安とする、1食当たり野菜120グラム以上▽油から摂取するエネルギー比率30%以下▽食塩相当量3・0グラム以下—の3点の基準をクリアして完成した。

野菜、油、塩の量に配慮した新商品の弁当。後方は「V. O. S. メニュー」のロゴマーク=7日午後、大阪府庁

こうした食事メニューを府は、野菜、油、塩の英語の頭文字を組み合わせた「V. O. S. (ボス) メニュー」の名称で推奨しており、弁当はメニューの普及を図るために今回制作したロゴマークを使った初の商品となる。



月額2万~4万円に=給付型奨学金で原案—文科省

時事通信 2016年12月8日

文部科学省は8日、大学生らを対象にした返済不要の給付型奨学金創設に向けた制度検討チームの会合を開き、給付額を月2万~4万円とするなどの原案をまとめた。

同省は来週中に最終的な制度案をまとめ、与党や財務省などと調整する。

具体的な給付月額は、自宅から国公立大に通う学生が2万円、私立大に通う自宅生や親元を離れて下宿先から国公立大に通う学生が3万円、私立大に通う下宿生は4万円とする。

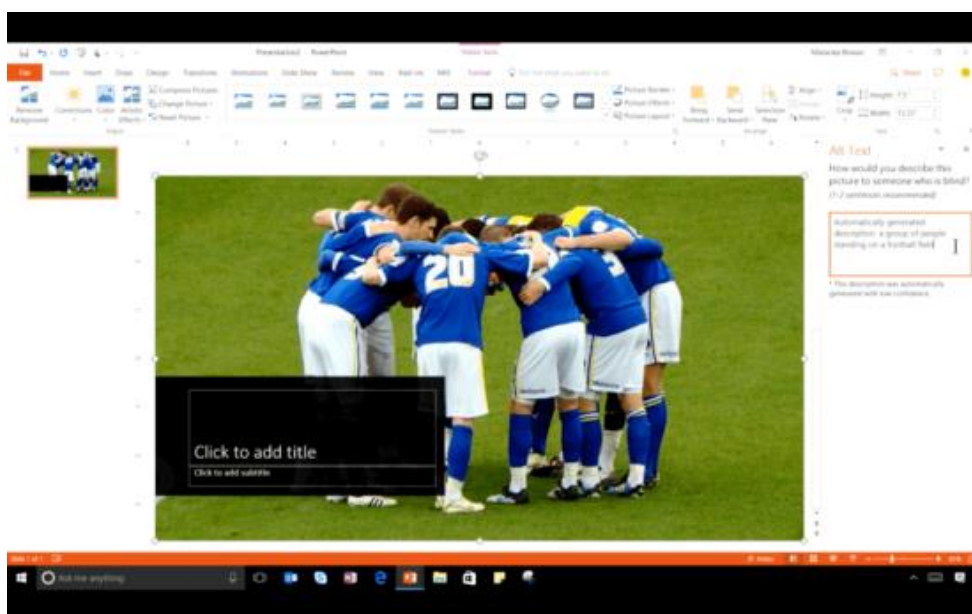
児童養護施設の出身者らには、入学金の負担を軽減するため、入学時に一括して16万~30万円程度の範囲内で一定額を給付することも検討する。

給付型奨学金は2018年度から本格実施する方針で、1学年約2万人が対象になると見込む。17年度には一部の学生を対象に先行実施する。

ワードにAI 視覚障害者向け写真説明を自動生成

日本経済新聞 2016年12月9日

米マイクロソフト(MS)は2017年早々に「ワード」と「パワーポイント」で写真の説明を自動



生成し、文書に加えられるようになると発表した。まず業務ソフト「オフィス365」の利用者がウィンドウズパソコンでこのサービスを使うように

なる。

■「代替テキスト」がないと、視覚障害者は写真の内容が分からない

本来はパワーポイントに写真を埋め込む際、写真のタイトルと説明を「代替テキスト」（編集部注：画像が見えない場合のために入れる画像の内容を表した文章のこと。画像の下などに添えるキャプションとは別）で入力できる。だが、スライドの作成時に誰もがこれを行うわけではない。このため、視覚障害者はスライドを開いても写真の内容が分からず、そのスライドや資料全体を十分に理解できない恐れがある。

MSはこの状況を変えるため「コグニティブ（認知）サービス」の「コンピュータービジョンAPI」を活用し、写真の代替テキストの生成プロセスを自動化することにした。同社のオフィスエンジニアリングチームでアクセシビリティ（使いやすさ）担当リーダーを務めるジョン・ジャンドルザック氏は、ブログへの投稿で「このサービスは機械学習によって自ら改良を重ね、メディアを駆使した分かりやすいプレゼンテーションの作成時間を大幅に短縮してくれる」と強調した。この機能を使うには、写真を右クリックして「自動代替テキスト」を選ばばよい。

パワーポイントで代替テキストが自動生成される様子（右上）

この技術ではディープラーニング（深層学習）という人工知能（AI）の一種を活用して写真の中の物体を認識し、その写真全体を説明する最適な表現を見つけ出す。これをウィンドウズのスクリーンリーダーが読み上げる。

ディープラーニングでは、写真など大量のデータで人工のニューラルネットワークを訓練した上で、新たなデータについて類推させるのが一般的だ。マイクロソフトに加え、アップルやフェイスブック、グーグル、ツイッターもこの手法を使っている。

■フェイスブックも似たサービスを導入

実際、フェイスブックは今年に入り、今回のマイクロソフトとよく似たサービスを開始。利用者がシェア（共有）した写真の説明を自動生成する仕組みを導入した。視覚障害者が米アップルの「iOS」搭載端末でフェイスブックのニュースフィードをスクロールすると、iOSの画面読み上げ機能「ボイスオーバー」がすぐに自動生成されたキャプションを読んでくれる。これにより、視覚障害者は他の利用者が投稿した写真の内容やコメントを理解できるようになった。

ツイッターは最近、利用者が投稿した画像に手動で説明を付けられるようにした。同社もディープラーニングの研究に取り組んではいるが、画像のキャプションを自動生成する機能は提供していない。

ジャンドルザック氏はブログへの投稿で、現在は分かれているタイトルと説明のフィールドをまとめる方針も明らかにした。この方法では「代替テキストをどこに入力するのか迷わなくなる」という。現在は、画像に説明を加えるには「(図の) 書式設定」作業ウィンドウを開いて「サイズとプロパティ」（パワーポイントの場合。ワードでは「レイアウトとプロパティ」）タブを選択し、さらに「代替テキスト」を選ばなくてはならない。

By Jordan Novet

（最新テクノロジーを扱う米国のオンラインメディア「ベンチャービート」から転載）

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行